

秋空の下、全力を出し切った豊府っ子

10月12日、第51回秋季大運動会が素晴らしい秋空の下、実施できました。保護者、地域の皆様方のご協力のおかげで、子どもたちは全力を出し切り、成功裏に終えることができました。

練習から本番を通じて、子どもたちは、「あきらめずに粘り強く、よりよいものに仕上げようと、友達と協力して」頑張ることができました。まさに「三さ」のブラッシュアップです。優勝した赤組の団結力もすばらしかったですし、残念ながら負けはしたものの、総合練習の結果から自主的に組の練習に取り組み、その成果を出した白組も素晴らしかったです。高学年の係活動で見せる姿も素晴らしかったです。学年の発達段階に応じた6つの表現も、どれも素晴らしく感動的でした。ゴールを目指して最後まで走り切る姿からも力をもらえました。大玉送りの接戦も見ごたえがありました。



【6年生 見事な扇】

秋空に集った豊府小にかかわるすべての皆さま、ありがとうございました。「豊府っ子はすばらしい」まさにその一言です。

最後に、会場の警備やテントの片づけ等、最後までご協力いただいた本校PTA、父親部、6年生の保護者、卒業生の皆さま、大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。

豊府小だより

令和6年度
第7号

10月23日
豊府小学校
文責 校長

【新しい先生の紹介】

○ 新田桃香先生～10月7日より新たに2年3組の学級担任として着任しました。どうぞよろしくお願いたします。

【このつぎなあと】

読書の秋、本校でも子どもたちが読書に親しむようと、図書委員会が様々な工夫を凝らした取組を実施しています。「この本を読みたい」と言って本を手に取り、借りて読む…、まさに主体的な学びの姿です。秋の夜長のこの時期、是非とも良い本に出合えたらと思います。

表題の「このつぎなあと」は、私自身が小学校低学年の頃だったでしょうか、休み時間のたびに図書館に行き、一通り読んで、また次の日にも同様に読んでいた本のタイトルです。どれくらいの期間同じことを繰り返していたのか定かではありませんが、タイトルや中身もはっきり覚えているので結構な期間ではないかと思えます。

～おじいさんと恐ろしいものに化けるタヌキのお話です。息子が町へ働きに出ていった後は、山奥に住む一人暮らしのおじいさんの家を訪ねる人は誰もいません。ある時、大蛇がおじいさんの家を訪ねます。最初は恐ろしく怖がっていたおじいさんですが、よくみると大蛇に手や足、ふさふさのシッポがついていることに気づきます。おじいさんは、このタヌキめ！と追い出そうと考えますが、寂しさを紛らすにはちょうど良いと思い、騙されたふりをしておにぎり等ふるまいます。

その後、鬼や大入道に化けておじいさんの家に怖がらせに来ては、おにぎりをいただいて帰ります。おじいさんも「この次は何に化けてくるのかな」と楽しみになってきます。

ある時、何年も町に働きに出ていた息子がおじいさんを迎えに来ました。おじいさんは、寂しさを紛らわせてくれたタヌキにお礼の手紙とおにぎりを置いて、町へ出ていきました。「今度は化けずにこのままの姿で、おじいさんの家に行こう」と訪ねたタヌキですが、家の中におじいさんはいなく、手紙とおにぎりがありました。

手紙を読んだタヌキは、「なんだ、俺がタヌキであること知っていたのか、どっちが騙されたのかわからないや。」と喋って大笑いした後、涙を流す…というお話です。～

*おじいさんの孤独と最後の涙への共感
自分の祖父母と重ね読んでいました。



【最後まで全力で】